

2007年度わが国貿易収支、経常収支の見通し(商品別輸出)

平成18年12月5日(火)

輸 出	2005 年度 (実績)		2006 年度 (見込み)				2007 年度 (見通し)		コメント			
	億円	伸率%	上半期 (実績)		下半期 (見込み)		億円	伸率%	2006年度		2007年度	
			億円	伸率%	億円	伸率%			億円	伸率%	億円	伸率%
総 額	682,963	+10.7%	373,978	+15.2%	389,078	+8.6%	763,056	+11.7%	↑ 809,542	+6.1%		
EX 食料品	3,276	+13.9%	1,699	+16.2%	2,159	+19.0%	3,858	+17.8%	↑ 4,461	+15.6%	食料品の4割を占める魚介類・調製品は、韓国・中国向けを中心に大きく増加。	引き続き好調。
EX 原料品	7,848	+22.4%	4,703	+26.8%	4,930	+19.1%	9,633	+22.7%	↑ 10,621	+10.3%	原料品輸出の約半分を占める「金属鉱及びびくず」は数量ベースでは減少するが、価格が牽引する形で増加傾向。生ゴムは、合成ゴムがナフサ価格の上昇を受け、上半期増加したが、下半期は価格は横ばい。数量若干増加。	原料品輸出の約半分を占める「金属鉱及びびくず」は、価格上昇が一般。生ゴムは価格横ばい。
EX 鉱物性燃料	5,334	+131.3%	3,769	+66.7%	3,230	+5.1%	6,999	+31.2%	↓ 6,300	▲10.0%	中国向けに発電用の重油や軽油などの受託生産が継続、重油や灯油等の石油製品の中国向け輸出が増加している。中国では、急速な需要拡大に、発電用燃料の重油や軽油などの供給が追いつかなくなっていることが背景にある。	中国向け石油製品の競争激化から輸出の増加は頭打ちに。
EX 化学製品	61,279	+14.9%	33,745	+18.0%	34,107	+4.3%	67,852	+10.7%	↑ 70,609	+4.1%	アジアでの需要が強いため、輸出数量は引き続き堅調に推移する。8月下旬からの原油価格低下の影響が、下半期の化学製品の価格に反映されていくため、輸出価格は低下していく。	アジアの旺盛な需要に支えられ、輸出数量は伸びていく。ただし、中国を中心にアジア各国で設備の増強が進められているため、輸出数量の伸びは徐々に鈍化していく。価格は、06年の夏場に原油が高騰した影響で、07年度は低下する。
EX 原料別製品	76,978	+14.4%	43,535	+16.3%	44,985	+13.8%	88,520	+15.0%	↓ 87,252	▲1.4%	数量面では、鉄鋼は横ばいも、他は総じて増加。価格面では、非鉄金属の価格が急騰。	数量は横ばい。価格も、鉄鋼、非鉄金属、ゴムなどの上昇が一段落。
鉄鋼	31,289	+17.1%	17,210	+11.1%	16,886	+6.9%	34,096	+9.0%	↓ 32,391	▲5.0%	中国の鉄鋼輸出急増の余波に懸念あるも、相対的に高級品の占める割合が高い日本の輸出は影響が小さいと期待。一方で、国内需要は旺盛、輸出余力に限界ある状況が続く。	現状からの一段の上伸は見込みにくく、高水準で横ばいトレンド継続と見る。価格も切り上がった水準を維持、大きな調整はないと期待。ボトルネック解消で若干の国内生産増が期待できることも輸出に追い風。
非鉄金属	8,825	+27.6%	6,392	+63.8%	7,545	+53.2%	13,937	+57.9%	↓ 13,240	▲5.0%	商品市況急騰で製品価格も総じて上振れ。	銅：数量は横ばいもしくは若干増、海外メーカーとの競争激しく価格は抑制。アルミ：数量は堅調持続も、価格は下落。
織物用糸・繊維製品	7,572	+0.1%	4,026	+6.0%	4,032	+6.8%	8,058	+6.4%	↑ 8,344	+3.5%	合成繊維織物は、円安による価格競争力アップに加えて、高機能製品の需要開拓が進んだことから増加に転じた。綿織物も、中国向けの減少が一巡しつつある。一方、産業資材・インテリア向けなどの非衣料分野向けが中心の繊維二次製品・特殊織物は、日系企業海外生産の拡大やアジアにおける高機能製品需要拡大により引き続き増加基調。また、繊維製品全体で見ると、原材料コストアップと高級品へのシフトから単価は上昇。	合成繊維・綿織物は、高級品を中心に緩やかな増加が見込まれるものの、繊維二次製品・特殊織物に関しては、現地調達率の進展、原材料コストアップの価格転嫁一巡により、増勢が鈍化する。
非金属鉱物製品	7,961	+15.9%	4,318	+11.3%	4,594	+12.6%	8,912	+12.0%	↑ 9,633	+8.1%	約半分を占めるガラス及び同製品は韓国・台湾向けを中心に堅調。価格横ばい、数量増加。	ガラス及び同製品は引き続き価格横ばい、数量増加。
EX 一般機械	137,398	+7.3%	74,411	+12.0%	75,589	+6.5%	150,000	+9.2%	↑ 160,000	+6.7%	世界的な景気拡大や資源開発ブームに伴い設備投資が活発化、設備機械が好調。	引き続き好調が続くも、米国の成長率鈍化、中国の景気過熱引き締め政策もあり、やや緩やかな伸びとなる。
電算機類(含周辺機器)	7,950	▲9.8%	4,122	+6.9%	4,200	+2.6%	8,322	+4.7%	↓ 8,000	▲3.9%	米国向けパソコンが好調。	米国IT需要の頭打ちから数量が伸び悩む。価格の下落も続く。
電算機類の部分品	16,939	+5.0%	8,850	+6.4%	9,054	+5.0%	17,904	+5.7%	↑ 18,620	+4.0%	中国、ASEAN、欧州向けに増加。ただし単価の下落傾向は続く。	米国経済の緩やかな減速に伴う需要減により米国・中国向けの伸び鈍化。
EX 電気機器	150,212	+5.4%	79,926	+11.0%	80,000	+2.3%	159,926	+6.5%	↑ 168,000	+5.0%	先行きハイテク景気の鈍化が見込まれるも、夏場までの好調で06年度は1ヶ台後半の伸びを確保。高い水準で横ばいと見る見込み。	ビッグイベントがなくデジタル家電完成品の高い伸びは期待しにくい。一方、アジアの生産拠点を向け部材の輸出や、加えて、世界景気の成長を追い風とする資本財に対する需要が堅調。
半導体等電子部品	45,301	+3.7%	23,788	+8.5%	25,000	+7.0%	48,788	+7.7%	↑ 51,228	+5.0%	世界景気の成長を追い風に世界半導体市場の緩やかな拡大を持続。アジア向け部材供給のため輸出の流れは順調。	オリンピックやサッカー・ワールドカップといったビッグイベントがなく、大きな需要の伸びは期待しにくいも、世界景気の伸びをやや上回る順調な拡大を予測する。
EX 輸送用機器	160,249	+13.0%	88,501	+19.8%	94,834	+9.8%	183,335	+14.4%	↑ 200,272	+9.2%	自動車輸出が好調。日本車シェア拡大が続く北米向けや、資源高騰による好景気でロシア・中東向けが堅調。	モータリゼーションの進む中国、ロシア市場向け自動車輸出が引き続き堅調だが、米国の景気減速、海外生産の拡大等により伸びは鈍化。
自動車	105,018	+12.9%	60,039	+23.8%	65,020	+15.0%	125,059	+19.1%	↑ 139,066	+11.2%	国内生産設備増強等により、好調な海外販売に対し輸出増で対応。北米での日本車販売が堅調に推移するほか、資源高騰による好景気でロシア、中近東等で販売拡大。一方、東南アジア向けはガソリン高、物価高、政治不安等により不振。	北米での日本車販売は引き続き健闘、中国、ロシア市場の拡大も続く。現地生産の進展により台数の伸びはやや減速。高級車の割合増加により、単価は上昇を見込む。
自動車の部分品	29,083	+13.0%	15,011	+6.7%	15,430	+2.8%	30,441	+4.7%	↑ 31,101	+2.2%	資源高騰により、部品調達におけるコスト削減の一環として、現地調達比率が増加。また複数拠点における車体プラットフォームの共有化などにより、部品の三国間供給が進み、輸出品の伸びは鈍化する。	さらなる海外生産拠点の拡大が予定されているも、現地調達比率・三国間取引の増加に伴い、数量増は限定的。単価は資源高とモジュール部品などの高機能製品の比率の増加により上昇。
船舶	13,856	+13.6%	7,359	+22.7%	8,384	+6.7%	15,743	+13.6%	↑ 17,905	+13.7%	船価低迷期に受注した船の竣工が続くため価格上昇は限定的。数量増を見込む。	船価回復時の受注船の竣工が開始するため金額は増加する。
EX その他	80,388	+10.7%	43,690	+12.3%	49,243	+18.7%	92,933	+15.6%	↑ 102,027	+9.8%	科学光学機器は03、04年度急増の後、半導体・液晶生産の拡大に応じて高水準横ばいを続けている。写真用材料・記録媒体・プラスチック製品などの各種工業製品材料の輸出は、アジア諸国における生産活動活発化により引き続き好調持続。事務用品・衣料品などの消費財も、メーカーの拡販努力、円安により高機能品を中心に増勢基調。	各種工業製品材料は、現地調達率の拡大と円高により伸び率が鈍化。消費財関連は、高機能品の伸びが高水準を維持。
科学光学機器	24,961	▲1.1%	12,263	▲0.6%	12,752	+1.0%	25,015	+0.2%	↑ 25,390	+1.5%		
機械機器	528,247	+8.9%	286,528	+14.1%	299,666	+8.1%	586,194	+11.0%	↑ 630,299	+7.5%		

*機械機器 = 一般機械 + 電気機器 + 輸送用機器 + その他

*金額は千万円単位を四捨五入、ただし前年度比増減率(%)は百万円単位の数値を使用

*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「▲」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している